2014年3月期 第3四半期決算概要

ルネサス エレクトロニクス株式会社

2014年 2月 6日

取締役執行役員常務兼CFO 柴田 英利

© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

本日のご説明内容

Ⅰ.　2014年3月期 第3四半期 決算概要

Ⅱ.　2014年3月期 通期業績予想

© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

エグゼクティブサマリ

Ⅰ. 2014年3月期 第3四半期 決算概要

- 半導体売上高は、堅調な自動車や産業機器向けの出荷が季節性要因の減少をカバーし、前四半期並みの水準となった
- 営業損益は、構造改革による固定費削減効果に伴う利益増などにより前四半期比191億円増の300億円となり、4四半期連続で黒字を確保

Ⅱ. 2014年3月期 通期業績予想

- 通期の半導体売上高は、前年度と比べて9％の増収だが、自動車向け半導体や中小型パネル向け表示ドライバICなどが牽引する一方、注力事業への集中による影響もあり、為替効果を除くと前年度比数％の減収を計画
- 当売上計画にて通期の営業損益は、前年度比779億円増となる547億円の黒字を見込み、為替効果を除いても黒字を確保
- 通期の当期純損益は、早期退職優遇制度の実施や事業・生産構造改革関連など、748億円の特別損失を計上することにより、218億円の赤字を見込む

© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

I. 2014年3月期 第3四半期 決算概要

© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

2014年3月期 第3四半期 決算概要

- 営業損益は、構造改革による固定費削減効果に伴う利益増などにより 前四半期比191億円増の300億円となり、4四半期連続で黒字を確保
- 四半期純損益は、鶴岡工場の資産譲渡に係る減損など164億円の特別損失があったものの、LTEモデム事業譲渡など155億円の特別利益があり、230億円の黒字となった

（単位：億円）

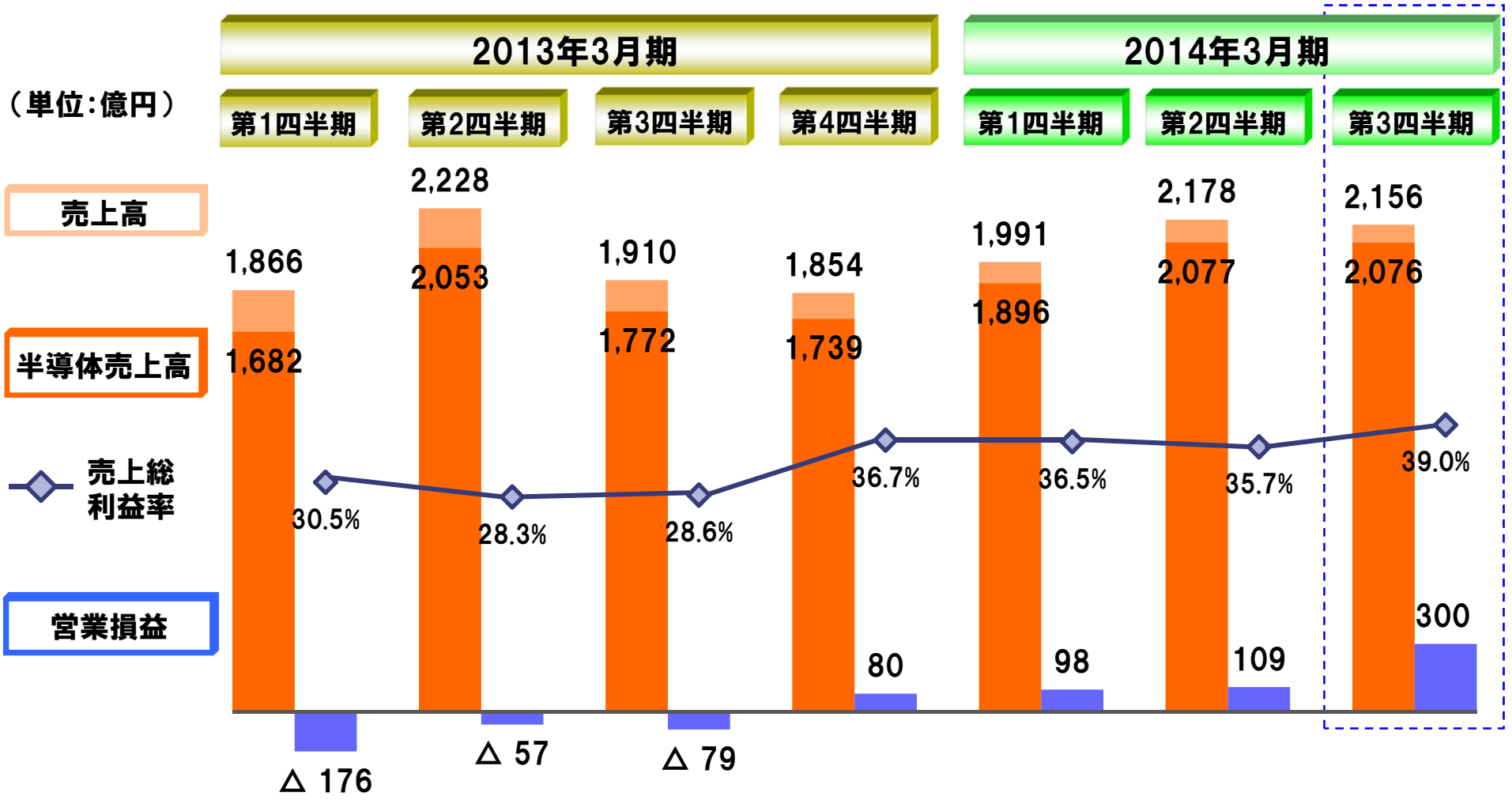
	2013年3月期		2014年3月期					
	第3四半期	前期 3Q累計	第2四半期	第3四半期	前年同期比	前四半期比	当期 3Q累計	3Q累計 前年同期比
売上高	1,910	6,004	2,178	2,156	＋246 (＋12.9%)	△22 (△1.0%)	6,325	＋321 (＋5.3%)
売上総利益(率)	547 (28.6%)	1,748 (29.1%)	779 (35.7%)	840 (39.0%)	＋293 (+10.3Pt.)	＋62 (+3.2Pt.)	2,345 (37.1%)	＋598 (+8.0Pt.)
半導体売上高	1,772	5,507	2,077	2,076	＋305 (＋17.2%)	△1 (±0.0%)	6,050	＋542 (＋9.8%)
営業損益	△79	△312	109	300	＋379	＋191	507	＋819
経常損益	△111	△355	54	293	＋404	＋240	432	＋788
四半期純損益	△466	△1,617	△88	230	＋696	＋318	102	＋1,719
(参考)特別損益	△328	△1,208	△112	△8	＋320	＋104	△207	＋1,001
1US$＝	79円	80円	98円	99円	20円 円安	1円 円安	98円	18円 円安
1ユーロ＝	102円	102円	130円	134円	32円 円安	4円 円安	130円	28円 円安

※表記されている桁数未満を四捨五入しております（以降のページ同様）

© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

四半期業績推移

- 半導体売上高は、前四半期比フラット、前年同期比では17.2％増
- 営業損益は、構造改革による固定費削減が寄与し、4四半期連続で黒字を確保



© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

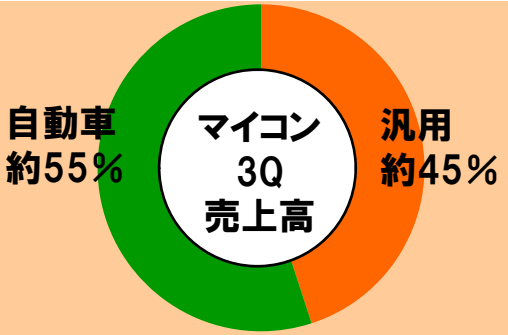
2014年3月期 第3四半期 半導体売上高の事業別状況①

■ 堅調な自動車や産業機器向けの出荷が季節性要因の減少をカバーし、前四半期並みの半導体売上高を確保

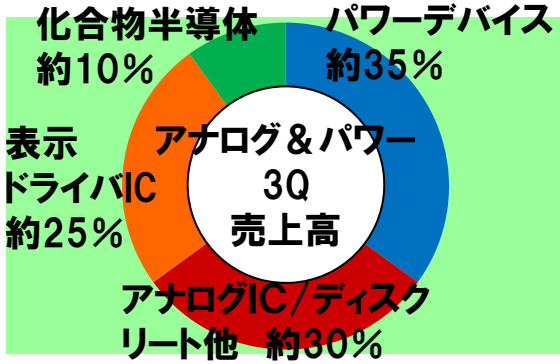
（単位：億円）	2013年3月期 第3四半期	2014年3月期 第2四半期	2014年3月期 第3四半期	前年同期比	前四半期比
半導体売上高 計	1,772	2,077	2,076	＋305 （＋17.2%）	△1 （±0%）
マイコン	712	889	899	＋187 （＋26.2%）	＋10 （＋1.1%）
アナログ＆パワー半導体（A&P）	578	723	724	＋146 （＋25.2%）	+1 （＋0.1%）
SoC	451	453	438	△13 （△2.9%）	△15 （△3.3%）
その他半導体	31	12	16	△15	＋3

© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

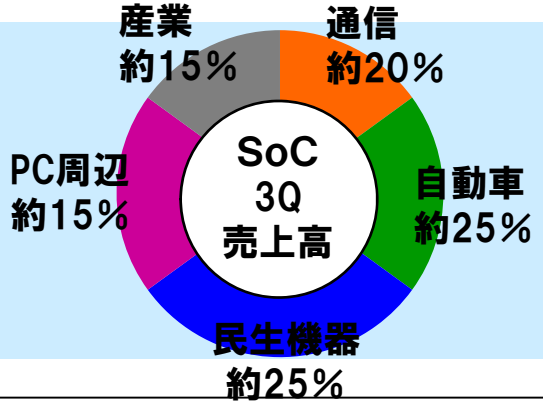
2014年3月期 第3四半期 半導体売上高の事業別状況②



- 自動車向けマイコンは、当期に生産の最盛期を迎える日系メーカー向けを中心に堅調を維持し、前四半期比一桁半ば%の増収
- 汎用マイコンは、エアコンなど一部の機器向けが好調だったものの、半導体需要の季節性要因による減少もあり、前四半期比一桁半ば%の減収



- 自動車向けは、パワーデバイス、アナログICともに堅調を維持し、前四半期比一桁前半%の増収。アナログ＆パワー全体の30%に成長
- 表示ドライバICは、スマートフォン向けを中心に堅調を維持
- 汎用向けは、パワーデバイス、アナログICともに季節要因もあり減収

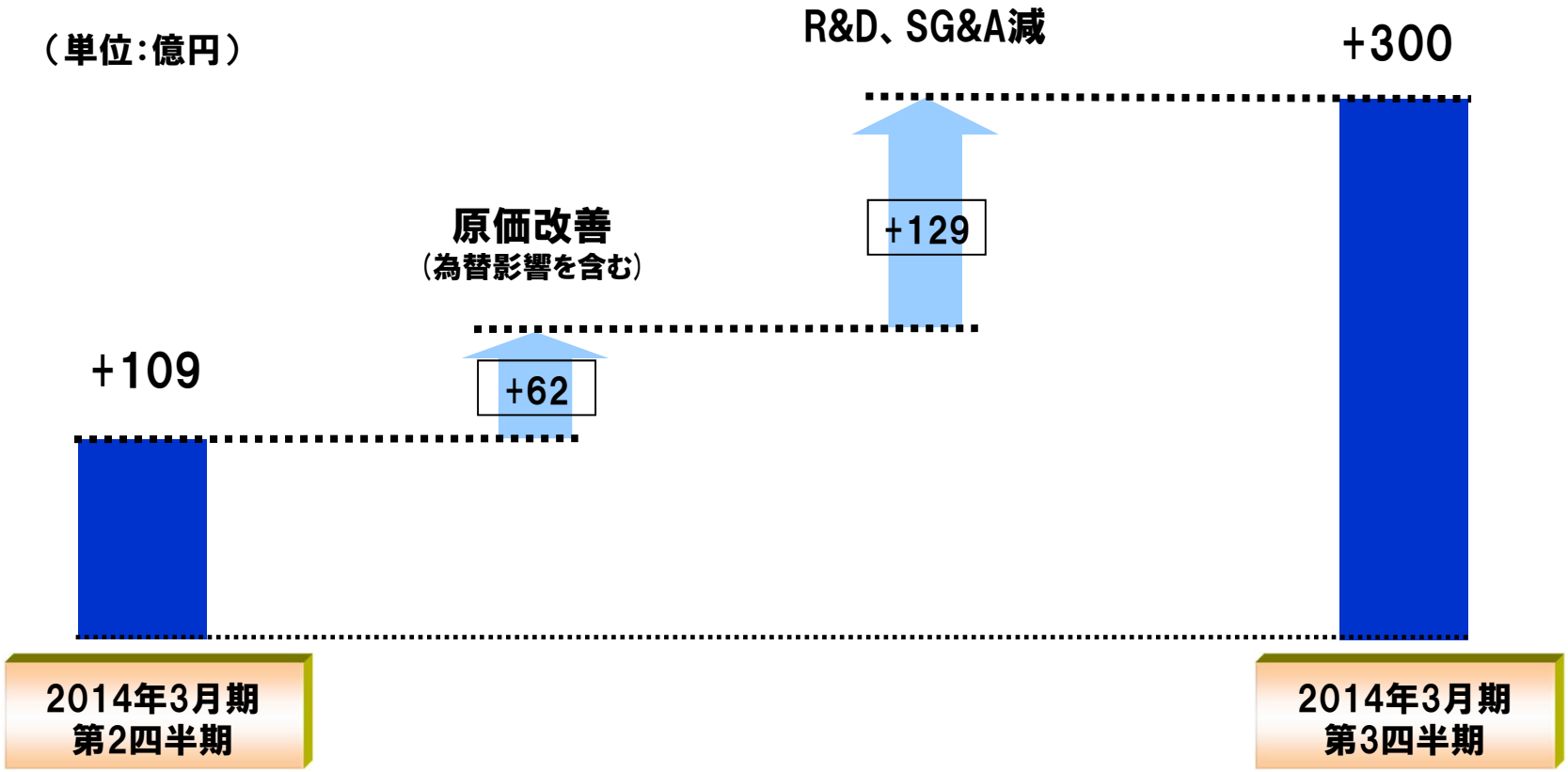


- 自動車向けは、カーナビなど車載情報機器向けが好調で前四半期比20%弱の増収
- 民生向け、PC向けは、注力事業への集中および季節要因もあり前四半期比で減収

© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

2014年3月期 第3四半期 営業損益（前四半期比）

- 半導体売上は前四半期比フラットだったものの、構造改革による固定費減が寄与し、第3四半期の営業損益は300億円の黒字となった

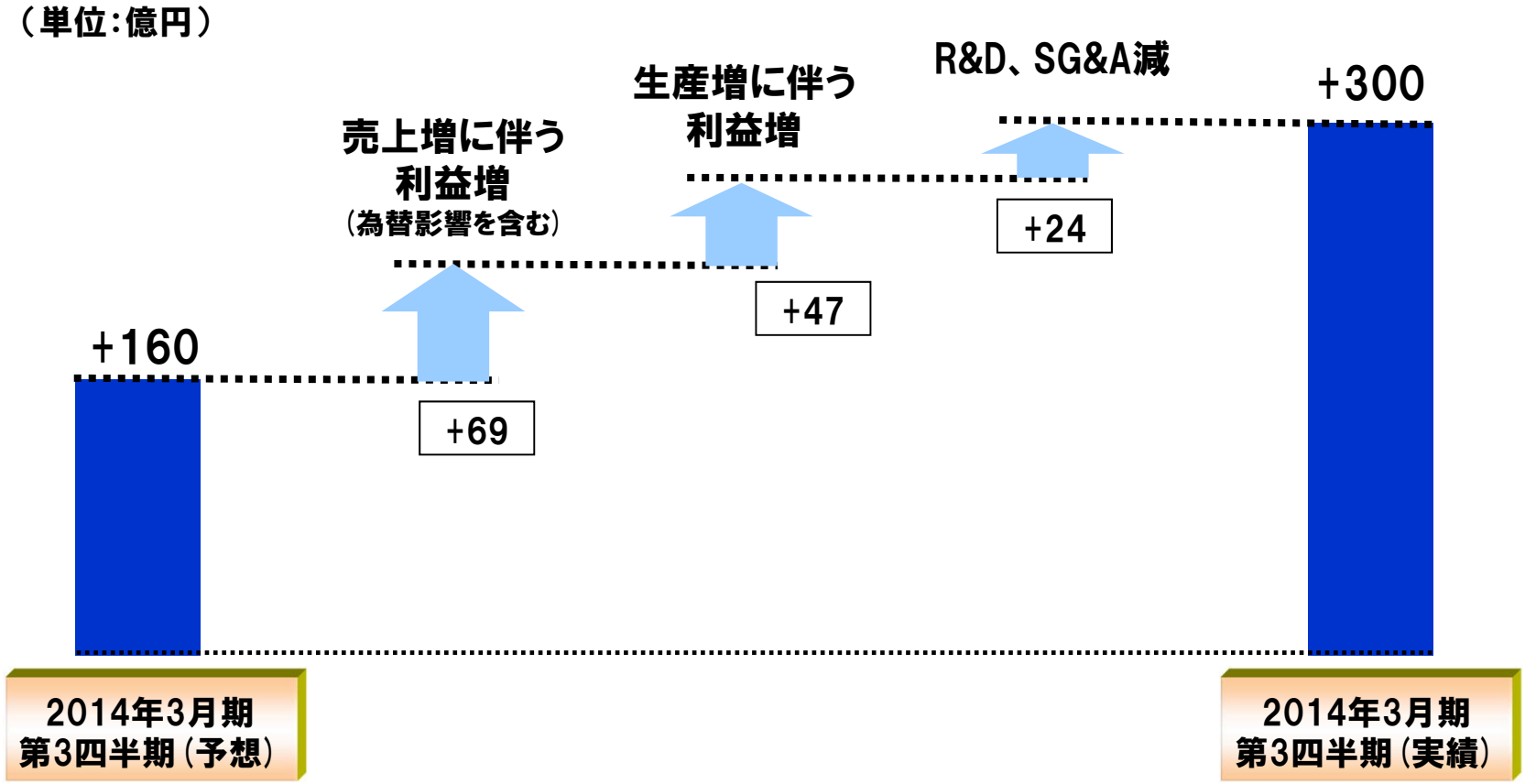


*R&D：研究開発費　*SG&A：販売費および一般管理費

© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

2014年3月期 第3四半期 営業損益（10月30日予想比）

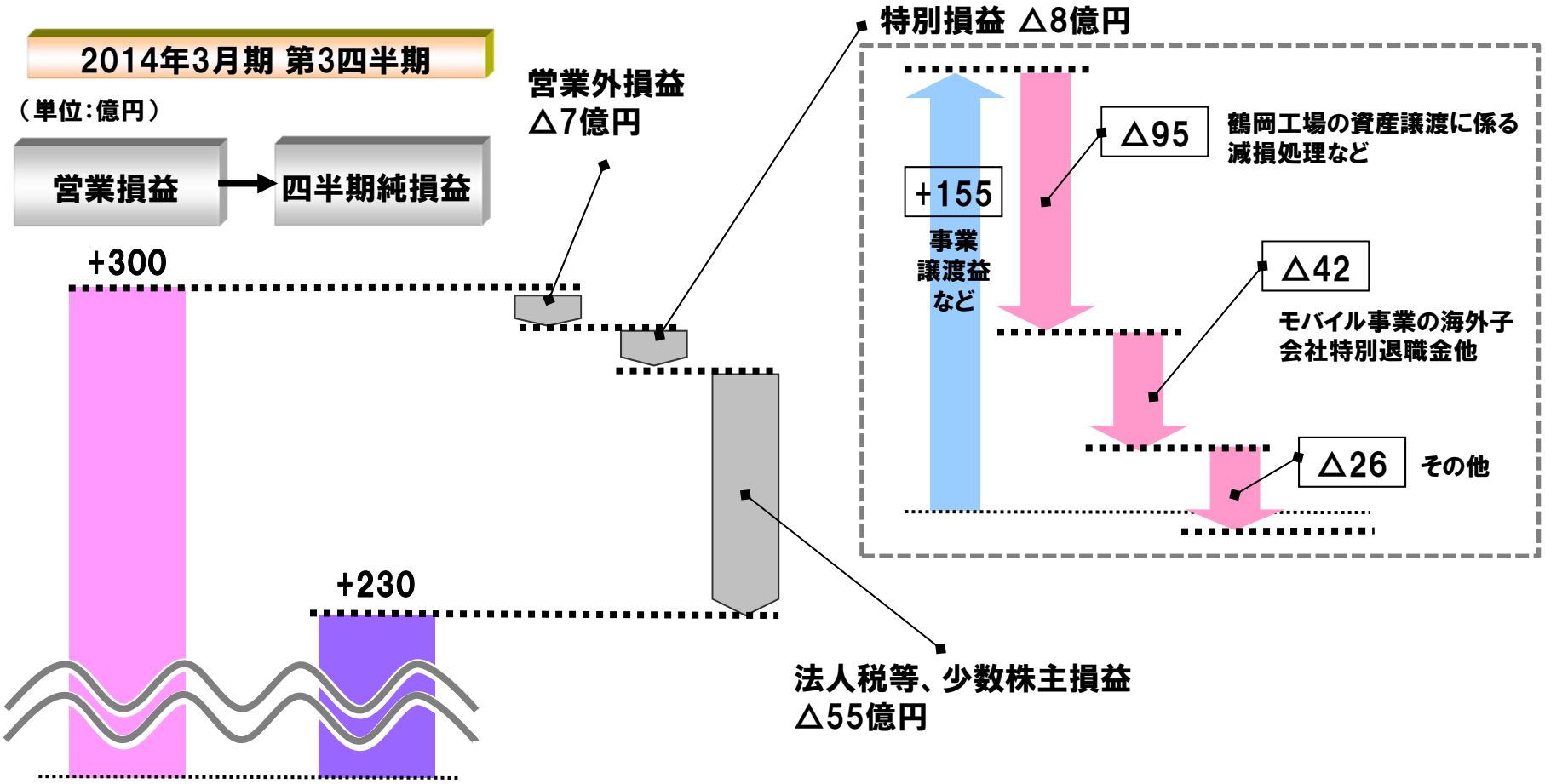
- 売上増、生産増に伴う利益増に加え、収益志向の徹底による費用減などにより、想定比では140億円改善



© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

2014年3月期 第3四半期 四半期純損益

■ 四半期純損益は、鶴岡工場の資産譲渡に係る減損など164億円の特別損失があったものの、LTEモデム事業譲渡など155億円の特別利益があり、230億円の黒字となった



© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

バランスシートの状況

自己資本比率は30％台へ向上し、財務体質は改善

(単位:億円)	13/3末	13/9末	13/12末
総資産	6,691	7,962	7,958
うち 現金及び現金同等物	777	2,393	2,660
うち たな卸資産	1,513	1,367	1,285
負債合計	5,912	5,744	5,436
うち 有利子負債	3,064	2,874	2,809
株主資本	758	2,130	2,360
純資産合計	779	2,218	2,522
D/Eレシオ(グロス)	4.59倍	1.38倍	1.17倍
D/Eレシオ(ネット)	3.43倍	0.23倍	0.06倍
自己資本比率	10.0%	26.2%	30.2%

(注)①現金及び現金同等物:「現金及び預金」と「有価証券」の単純合算値から「預入期間が3ケ月を超える定期預金」を控除しております。
②有利子負債:「短期借入金」、「1年内返済予定の長期借入金」、「リース債務」、「長期借入金」
③自己資本:「株主資本」、「その他の包括利益累計額」　④D/Eレシオ(グロス):有利子負債／自己資本

© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

キャッシュ・フローの状況

- 継続した営業利益の確保により、当四半期のフリー・キャッシュ・フローは305億円と3四半期連続で黒字を確保

（単位：億円）	2013年3月期 第3四半期	2013年3月期 9ヶ月累計（4-12月）	2013年3月期 通期	2014年3月期 第1四半期	2014年3月期 第2四半期	2014年3月期 第3四半期	2014年3月期 9ヶ月累計（4-12月）
営業活動によるキャッシュ・フロー	△475	△610	△541	284	90	339	714
投資活動によるキャッシュ・フロー	△61	△265	△432	△25	△65	△34	△124
フリー・キャッシュ・フロー	△536	△875	△973	259	25	305	589

© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

Ⅱ. 2014年3月期 通期業績予想

© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

2014年3月期 第4四半期および通期連結業績予想

- 通期の半導体売上高は、前年度と比べて9％の増収だが、自動車向け半導体や中小型パネル向け表示ドライバICなどが牽引する一方、事業の集中による売上減もあり、為替効果を除くと前年度比数％の減収を計画
- 当売上計画にて通期の営業損益は、前年度比779億円増となる547億円の黒字を見込み、為替効果を除いても黒字を確保
- 通期の当期純損益は、収益力の強化策として早期退職優遇制度の実施や事業・生産構造改革関連など、748億円の特別損失を計上することにより、218億円の赤字を見込む

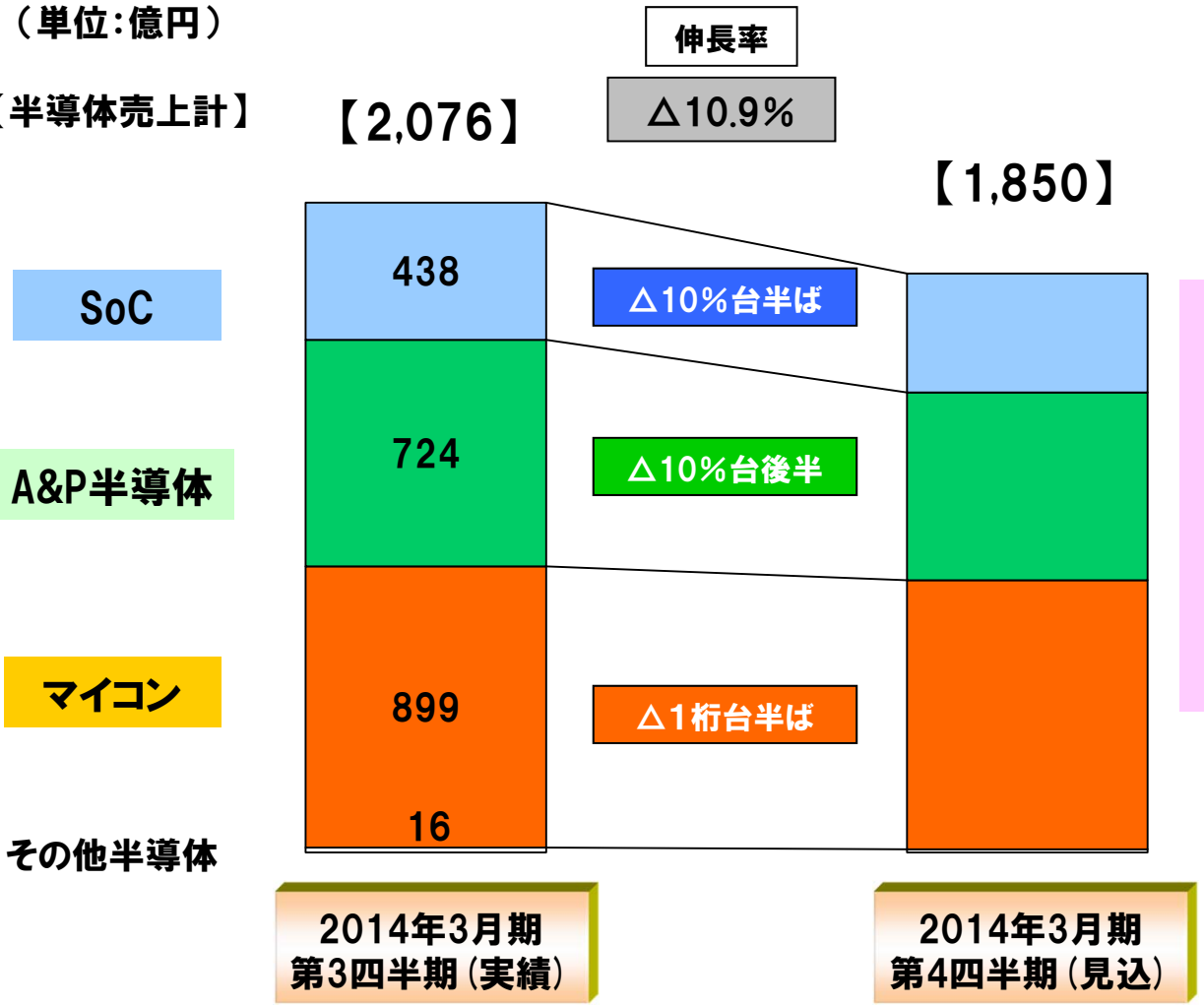
（単位：億円）	2013年3月期		2014年3月期				
	第4四半期（会計）	通期	第3四半期（会計）	第4四半期（会計）	前年同期比	前四半期比	通期
売上高	1,854	7,858	2,156	1,900	＋46	△256	8,225
半導体売上高	1,739	7,247	2,076	1,850	＋111	△226	7,900
営業損益	80	△232	300	40	△40	△260	547
経常損益	87	△269	293	10	△77	△283	442
当期純損益	△59	△1,676	230	△320	△261	△550	△218
（参考）特別損益	△101	△1,309	△8	△290	△189	△282	△497
1US$＝	89円	82円	99円	101円	12円 円安	2円 円安	99円
1ユーロ＝	118円	106円	134円	138円	20円 円安	4円 円安	132円

© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

2014年3月期 第4四半期 半導体売上高 見通し(前四半期比)

(単位:億円)

【半導体売上計】



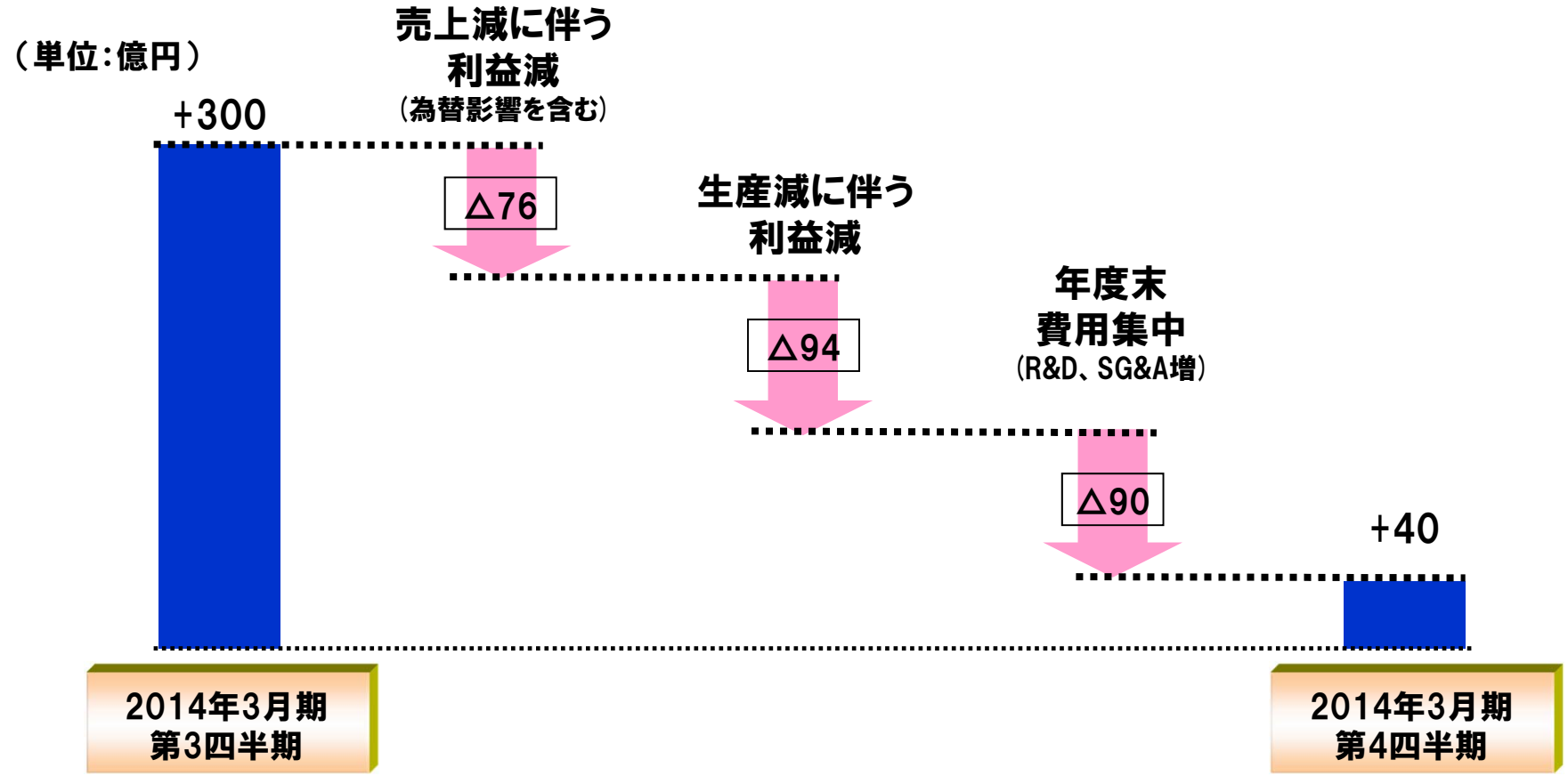
4Qの主な増減要因

- 自動車向けは3製品群とも堅調を維持
- その他の汎用製品は、季節サイクルの影響もあり、3Q比で減収となるが、汎用マイコンは微減に留まる見込み

© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

2014年3月期 第4四半期 営業損益 見通し（前四半期比）

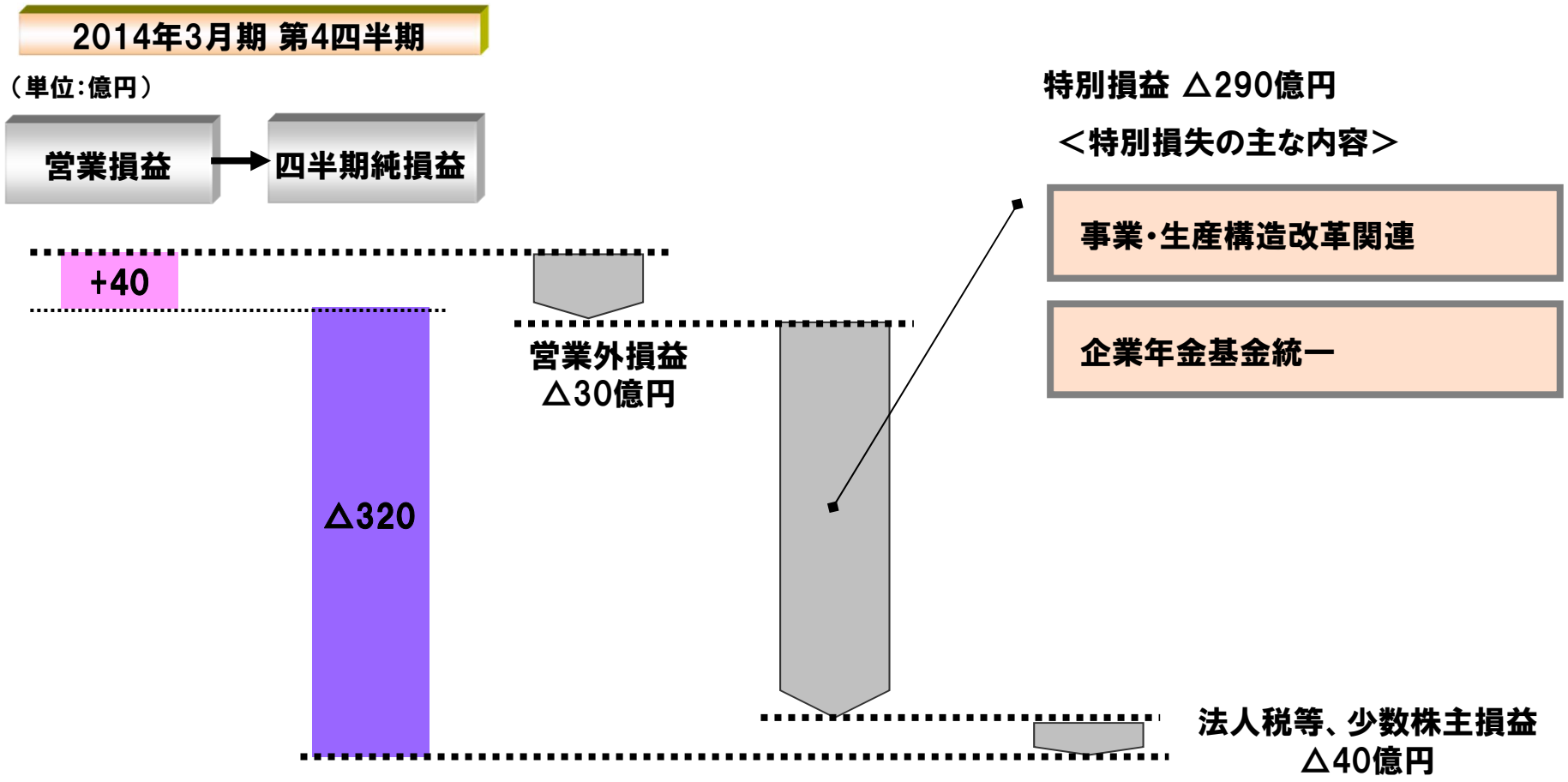
- 第4四半期の営業損益は、売上減、生産減による利益減に加え、年度末の費用集中が発生し、前四半期比で260億円の減益を見込む



© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

2014年3月期 第4四半期 四半期純損益 見通し

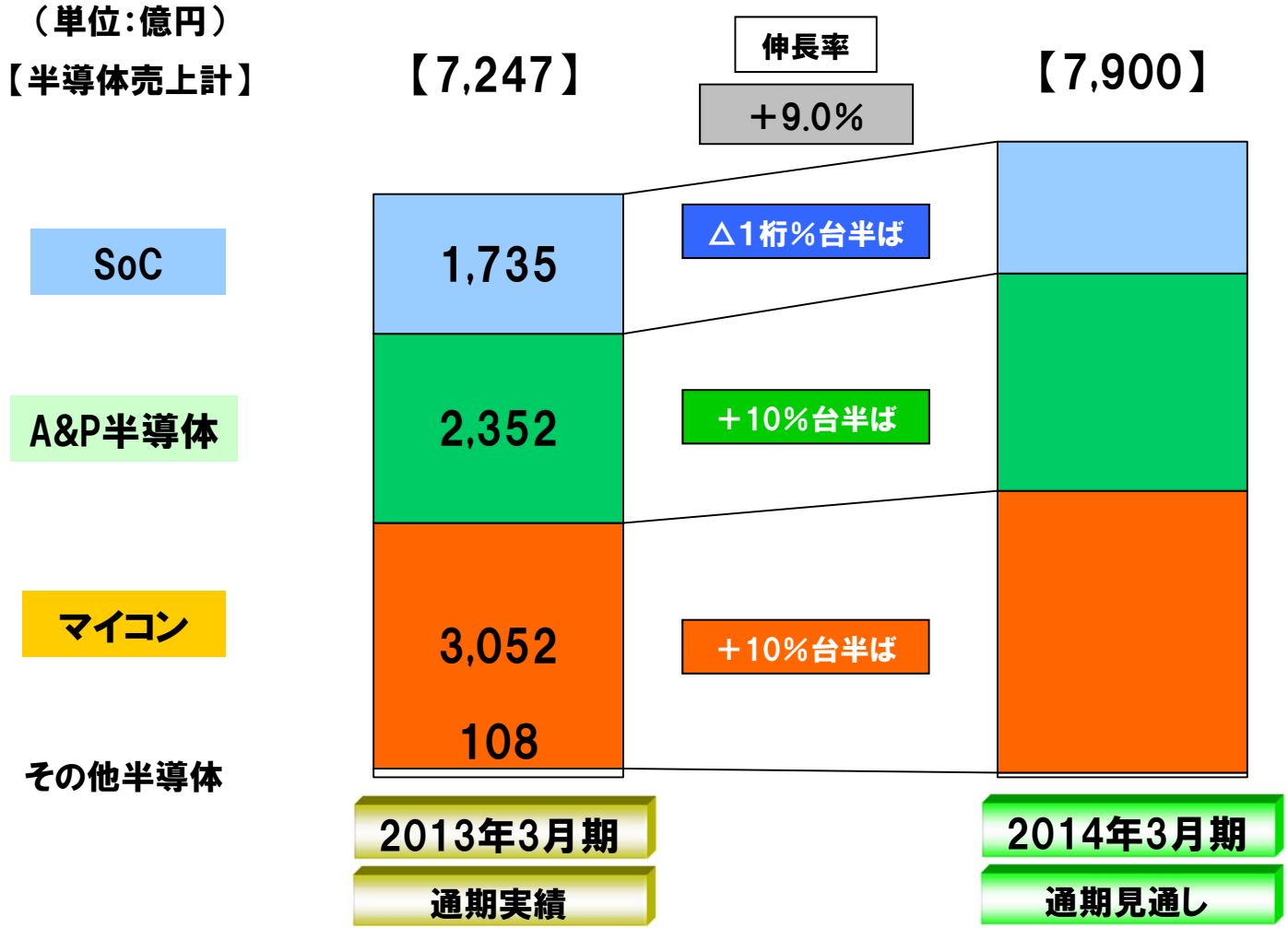
■ 第4四半期の四半期純損益は、特別損益（計：290億円の損失）などにより、320億円の赤字を見込む



© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

2014年3月期 通期 半導体売上高 見通し（前期比）

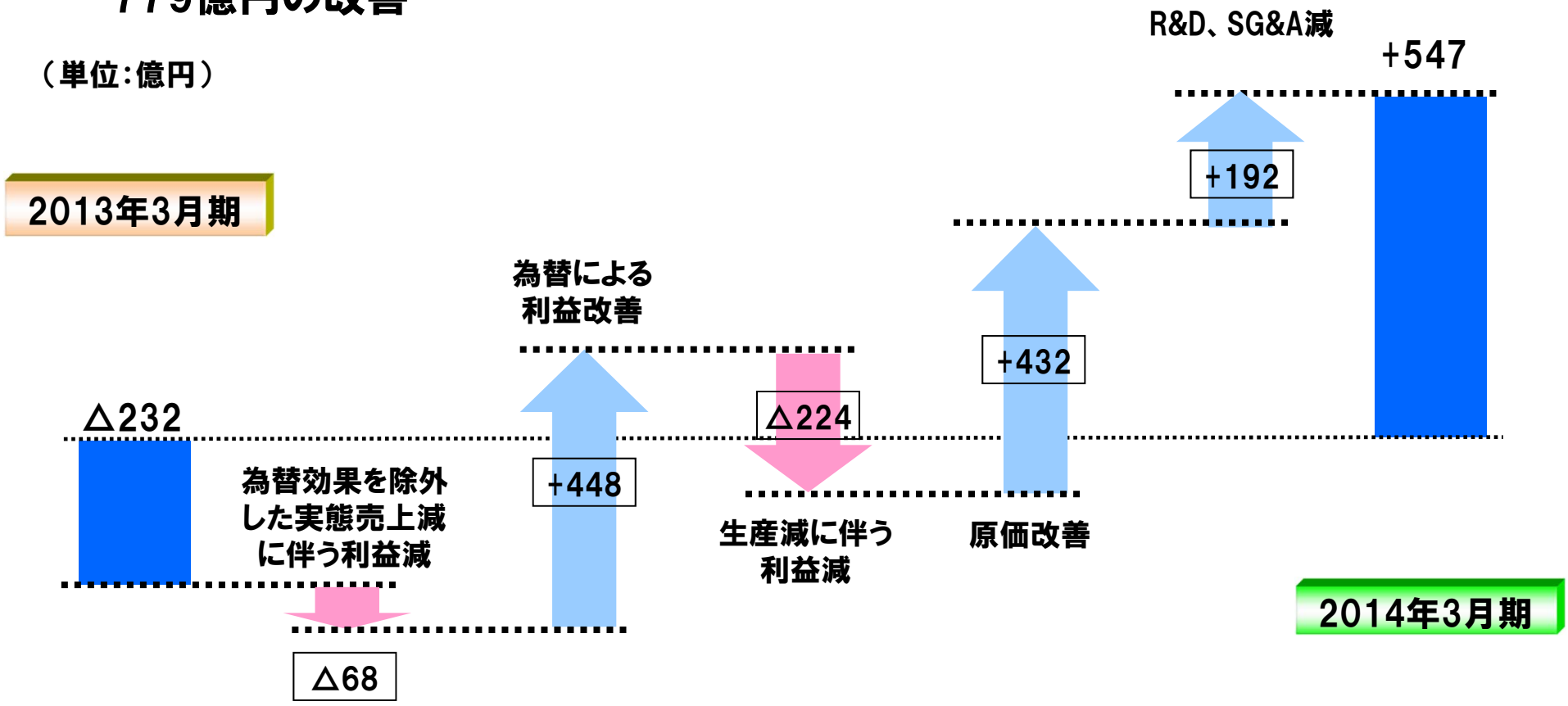
- 注力事業への集中が進むSoCは減収も、マイコン、A&Pは、それぞれ前年度比10％台半ばの増収



© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

2014年3月期 通期　営業損益 見通し（前期比）

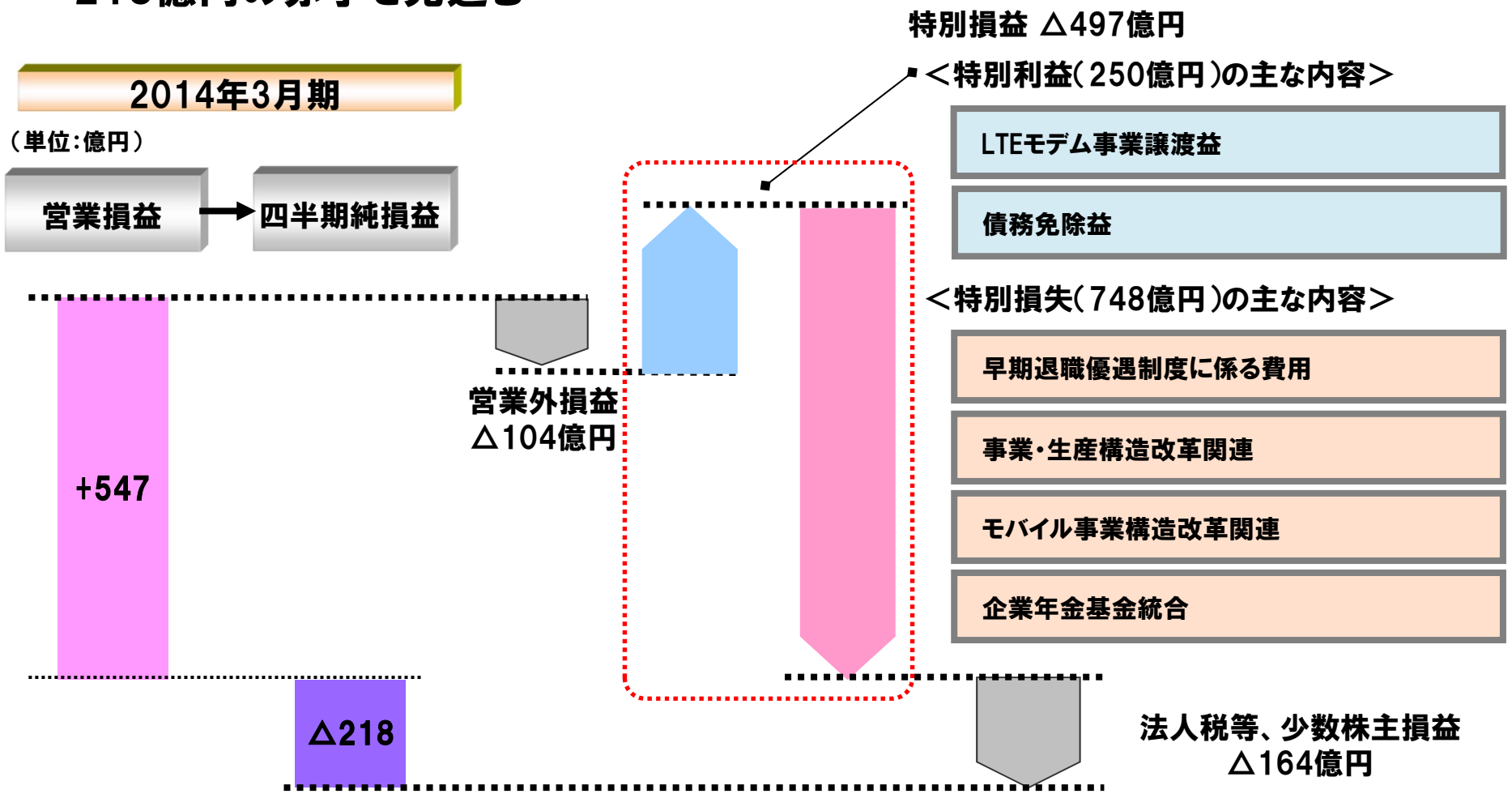
■ 為替影響による利益増に加え、構造改革効果により営業損益は779億円の改善



© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

2014年3月期 通期 当期純損益 見通し

■ 2014年3月期当期純損益は、構造改革に係る特別損失などを計上し
218億円の赤字を見込む



© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

まとめ

- 第3四半期の業績は、自動車や産業機器向け半導体が堅調で、前四半期並みの半導体売上高となったことに加え、構造改革による固定費削減効果に伴う利益増などにより4四半期連続で黒字を確保

- 通期の半導体売上高は、前年度比9％の成長だが、成長事業での売上増の一方、事業の集中による売上減により、実態は前年度比数％の減収を計画

- 営業損益は、構造改革効果に加え、円高の是正効果により、改善傾向にあるが、安定して営業利益を上げるべく、期末費用集中の平準化や戦略事業への集中投資と回収などの課題に取り組む

- 事業ポートフォリオの変革を図る中で、売上増に依存せず、安定した利益を生み出せるよう構造改革を推進

© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

（将来予測に関する注意）

本資料に記載されているルネサス エレクトロニクスグループの計画、戦略及び業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づきルネサス エレクトロニクスグループが判断しており、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、実際の業績等は、様々な要因により、これら見通し等とは大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因としては、（１）ルネサス エレクトロニクスグループの事業領域を取り巻く日本、北米、アジア、欧州等の経済情勢、（２）市場におけるルネサス エレクトロニクスのグループ製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、（３）激しい競争にさらされた市場においてルネサス エレクトロニクスグループが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを供給し続けていくことができる能力、（４）為替レート（特に米ドルと円との為替レート）の変動等がありますが、これら以外にも様々な要因がありえます。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷等により、実際の業績等が当初の見通しと異なる結果となる可能性もあります。

RENESAS

ルネサス エレクトロニクス株式会社

© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.